

農業共済新聞

安心のネットワーク
NOSAI
公益社団法人
全国農業共済協会
〒102-8411
東京都千代田区一番町19番地
購読 ☎03-3263-6413
編集 ☎03-3263-6727
毎週水曜日 月4回発行
(第5水曜日を除く)
©全国農業共済協会2024
http://www.nosai.or.jp/

埼玉県白岡市 アルファイノベーション(株)

ネギの安定供給へ 農福+商の力で 社会の要望に応える

埼玉県白岡市のアルファイノベーション株式会社は、ネギ生産・販売を核とする「農・福・商」連携を掲げ、福祉事業所との就労支援で人手を確保し、周年出荷による加工向けの安定取引を実現した。栽培技術の提供や流通支援を通じて全国の生産者と連携を深めている。「ミスマッチの解消が経営の基盤。社会に求められていることに応えていく」と山田浩太代表(50)。農業人口の急減や資材調達の不安化なども意識し、地域で管理しきれない果樹園での新規事業や肥料の自社製造など、さらなる発展に歩みを進める。

細地32畧で青ネギ・白ネギ、ナシを栽培する。正社員13人、特定技能やパート7人、役員2人、技術顧問1人の体制となっている。ネギの販路は主に加工向けで量販店にも卸す。自社生産分の年商は1億5千万円、経営全体で10億円超と農業では地域有数の大企業だ。

また、グループ企業「NPO法人めぐみの里」が、一般企業への就職が難しい人に就労の機会を提供する「就労継続支援B型」の福祉事業所を運営。作業受託で、正社員8人や利用者が45人が出向・調整中心に働く。年間2〜3人の利用者が他産業へ就職している。

「農業と福祉が同じ方向を向き、販売先も含めて三方良しのやり方が重要」と山田代表は話す。ネギ生産はリーダー1人が兼務で、青ネギ班が5人、白ネギ班が2人で編成する。リーダーは、売り上げや設備投資、借り入れ、人件費などを月別に採算表で分析し、毎月定例の会議で報告する。相場に左右されない



全国の農家で連携 物流や栽培の支援も

ネギ生産は、北海道など気候が異なる全国70経営体と提携する仕組みだ。ネギの周年出荷は、農福連携で通常の作業確保にもつながる。めぐみの里でも、青ネギ班、白ネギ班に分かれ、体調や体力を考慮しながら外葉むきや選別、箱詰め、圃場の除草など作業の割り当てを調整。個々の得意分野を生かす対応で意欲向上を促す。出荷調整施設では特注のベルトコンベヤー導入など動き回らず作業できるような考慮している。

山田代表は、経営コンサルタンの経験を経て、国産市場が大きく周年需要があり設備投資が少いネギ専作で経営確立を進めてきた。「消費者より生産者の人口減少が速い。農業は今以上に必要性が増す」と展望する。

【沖縄支局】沖縄県宮古島のメロン農家8farm(エイトファーム、増田充宏代表36歳)は、うるま市のいしかわ児童館(山城康代館長)に通う子どもたちとメロンでクリスマスツリーを制作するプロジェクトを進めている。子どもたちの自己肯定感向上に取り組み「解困プロジェクト」と宮古島産メロンのPRを連携させた試み。

子どもたちとメロンツリー作り 生育を支える一翼に



(37)は、5年ほど前に就農。地産地消などに取り組む「消費者との距離を縮めたい」とオリジナルブランドの「ていだメロン」栽培をスタートした。資金はクラウドファンディングで募り、インスタグラム(@8farm_myakouina)では「100日後ツリーになるていだメロン」を毎日投稿。増田さん夫妻は「農業を通して社会問題にアプローチするモデルケースとなれば」と話す。

今年は元日に能登半島地震が発生したほか、7〜9月の大雨や台風10号の影響などで農業分野に大きな被害をもたらした。農業保険制度を所管する農林水産省経営局の宮本亮保険監理官に今年の災害の特徴と対応について聞いた。

今年の農業災害の特徴と対応は

農林水産省経営局 宮本亮保険監理官に聞く



——能登半島で大きな災害が発生した。
宮本 元日に能登半島地震が発生。復旧半ばの9月に、能登半島豪雨で収穫期の水稲や園芸施設に被害が出た。NOSAI石川(石川県農業共済組合)が速やかに現地に入り、園芸施設はおおむね済金の支払いが終わり、水稲は月中旬に共済金が支払われる。水稲や麦の作物は。

地震と豪雨 農業保険が復旧支える

——果樹や畑作物の作柄は。
宮本 ウメは和歌山県や福井県、奈良県で暖冬の影響で不完全花による結実不良が多発。さらに和歌山県では3月の降ひょうで傷果が発生した。果樹カメムシ類が各地で多発し、3県で病害虫発生予警報が発表された。畑作物は農林水産省と情報共有しつつ、損害

——農業者にメッセージを。
宮本 近年は地球温暖化の影響で局所的な災害や高温による被害が多発している。水田で麦や大豆を栽培する際は排水対策、果樹では多目的ネットの設置など基本的技術を励行し、被害を抑えることが大切だ。災害リスクへの備えとして農業保険加入とともに、災害発生時の損害を最小限にとどめる農業版BCP(事業継続計画)も作成いただきたい。

主な記事

2面 総合

農業の構造転換実現へ 基本計画で具体化

3面 農業保険

災害に備え早期に復旧 BCPを作成しよう

4面 特集

写真などで振り返る 今年の主な災害・被害

おことわり

次週は休刊し、1月1日付の新年合併号を発行します。

ズバリ直言

馬庭昇

10月末に鳥根県内の養鶏場において、本年全国で4例目となる高病原性鳥インフルエンザが確認されました。県内最大の養鶏場であり、対策も十分とられていた中での発生です。また、その後も全国各地で過去最悪のペースで発生が確認され、目に見えないウイルスの脅威を改めて感じることも、発生農場の早期再開を心より祈念いたします。

収入保険制度を柱に

を補てんする収入保険は、ほとんどの農作物が対象ですが、鶏卵は他の経営安定対策が措置されていることから含まれておりません。また、米麦や大豆、野菜などを生産する農家は収入保険に加えるか、収入減少影響(NOSAI鳥根参事)をカバーする収入保険の総合性が高いため以上に十分発揮されることは持続可能な農業経営に不可欠です。中長期的には類似制度との一本化も含め検討していただければと思っています。

防風林

1年間の世相を一字で表す今年の漢字は「金」と発表された。パリ五輪での多くの金メダル獲得や政治をめぐる裏金問題、金目玉の闇バイトなど金にまつわる話題が注目を集めたことではあるが、裏金や闇バイトは来年に持ち越さず早くなくしてもらいたい。今年の漢字は、漢字の素晴らしさや奥深い意義を伝えようと日本漢字能力検定協会が1995年から始めた。11月に募集し、一番応募の多かった漢字が選ばれる。発表は原則12月12日、「いいい、いいい」の語呂合わせで同協会が漢字の日と定めた。京都・清水寺の貴主が大きな筆で大きな和紙に揮毫する発表イベントも定着した。全30回のうち金の選出は5回目でも多かった。いずれもオリンピックイヤーで金メダルが話題になったほか、2000年は2千円紙幣誕生、12年は山中伸弥氏のノーベル賞受賞(金宇塔)や金環日食、16年は東京都知事などの「政治とカネ」問題、21年は新5000円硬貨誕生なども理由に挙がる。続くのは2回選出の「戦」「災」「税」だ。戦は01年の米国同時多発テロと22年のウクライナ侵襲、災は04年の新潟県中越地震と18年の西日本豪雨、北海道胆振東部地震があった。年末を迎え、ウクライナ侵襲やイスラエル・ガザ戦争に加え、シリアのアサド政権崩壊など大きな異変が起きている。年明けには自国第一を掲げ、国際協調に傾く米国のトランプ政権が動き出す。戦や災に3度目がないことを祈る。

Zizlizer
地面を滑らせ 楽々草刈り
Zizlizer
MADE IN JAPAN PAT.No.4350755
http://www.kitamura-ss.com

For Earth, For Life
Kubota

これからの農業経営のヒントが見つかるオンラインイベント
GROUND BREAKERS
2025.1.17(金)14:00-17:00
参加費無料 【主催】株式会社クボタ

視聴申し込みはQRコード、もしくは「クボタオンラインイベント」で検索！
※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

パンコやスマホで簡単視聴
意見交換できる参加型イベント
農業の最新情報を発信

同日開催！
13:00-14:00
**クボタ新商品
オンライン発表会**
GROUND BREAKERSの視聴をお申し込みいただくと新商品発表も併せてご覧いただけます。